

機関誌の特集題目から見た

学校図書館界の主題状況

——2006 年 4 月以降の特集題目の分析を通じて——

今 村 成 夫

要旨

既報において、学校図書館関連団体である全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」に掲載された特集記事の特集題目を対象に、創刊号から 2006 年 8 月までの 50 年あまりの期間について内容分析をおこない、学校図書館分野のトピック（主題）がどのように変遷してきたか把握を試みた。本稿では、それ以降の 12 年あまりでのトピックの変容について追加で調査をおこない、把握を試みた。結果は、戦後 70 年間、学校図書館で取り上げられたトピックは読書指導領域に関するものが、特集記事全体の 4 割近くを今も占めていることを示した。学校図書館のスタッフに関する特集の比率も、戦後一貫して高い状態を維持している傾向が認められた。一方、過去 12 年間は、学校図書館の授業における活用に関する記事が三番目に多かった。アクティブラーニングなど、学校教育の方法に関する社会からの要請の変化や学校現場での議論が反映されている可能性がある。

1. はじめに

日本の学校図書館は、第二次世界大戦終結後に学校への設置のための運動が盛んにおこなわれ、昭和 28 年の学校図書館法（法律第 158 号）の制定

を経て、学校への設置が義務づけられた。その後も、そうした学校図書館の機能や役割に関し、さまざまな議論や運動もおこなわれ、教育における実践活動なども展開されてきた。そうした経過の中で複数の専門関連学術団体や協会（協議会）も組織され、活動を展開し続けてきた。

一方、学校における教育カリキュラムも時代の変遷に呼応するよう繰り返し学習指導要領の改正がおこなわれ、学校図書館での活動もそれに対応しつつ変遷し、今日では多様化も進んでいる。しかし、そうしたこれまでの諸活動が具体的にどのように変化をしてきたか、そして現在どのような状況にあるのかを具体的に検証する試みは、あまり多くおこなわれていない。

これまでの変遷を把握する試みの一步として、既報¹⁾において、学校図書館団体である社団法人 全国学校図書館協議会（以下 J-SLA）の機関誌「学校図書館」の創刊号から 2006 年 8 月までの 50 年間あまりにとりあげられた特集題目の主題分析をおこない、学校図書館における活動がどのように変遷をしてきてきたか、把握を試みた。

それからさらに 12 年あまりの時間を経たが、その間社会は情報社会へと移り変わりつつあり、学校への社会からの要請も変わりつつある。またそうした要請に応える形で、たとえば従来の授業スタイルから反転型授業（アクティブラーニング）への転換の奨励、思考力重視の教育や入試方式など、学校現場の教育スタイルも変わりつつある。そして、学校図書館の役割・機能も、学校図書館の活動や研究テーマなども、それに合わせて変化しつつあるものとみられる。

では、前回の調査で対象とした 2006 年 8 月以降に学校図書館界における議論の主題は具体的にどのように変わってきているのか。本稿では、前回の調査と同じ機関誌「学校図書館」の 2006 年 9 月以降現在までを対象に、前回と同様の調査をおこなった。

2. 前回の調査の概要・概観

既報¹⁾の調査では、全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」を対象に、

その機関誌で取り上げられた特集の題目の主題を分析した。同誌を対象とした理由は、同誌が学校図書館分野の機関誌としては最も古くから創刊され、50 年余りの年月を経てなお刊行が続けられていること。また同協議会は学校図書館の司書教諭など現場の関係者が中心となり設立がおこなわれ、学界の研究者や出版関係者等も加わって構成された団体であり、特集題目の設定にあたっては、(1) 同協議会の活動方針、(2) 編集委員の問題意識、および (3) 学校図書館現場からの要求が反映されているものとみなされる。そのため、それぞれの時期の学校図書館現場の状況や意向を把握しやすいと考えたためである。

対象とした期間は、同誌が創刊された 1950 年 9 月号（1 号）から 2006 年 8 月号（670 号）までの期間とした。

各号の特集題目と関連する各記事を査読確認し、特集の主題を分析した。特集題目に注目した理由は、こうした特集題目には、その時期の学校図書館にかかわる当時のトピックが表れやすいと考えたためである。

次いで主題分析結果にもとづき、各特集題目を主題が類似したものごとに分類した。分類にあたっては、図書館の分類表など既存の資料等にみられる分類体系等に頼ることなく、各号の目次を参考にしながら、主題分析された各特集題目をその類似性により独自に分類（グループ化）した。

以上のような手順により分類した特集題目を、文部科学省（旧文部省）の学習指導要領が改正される期間をも考慮しつつ、10 年ごとにさらに区分した。

結果を表 2.1. に示した。

表 2. 1. 年代別の特集題目件数¹⁾

主題カテゴリ 期間 件数 (件)	1951.5 -1961.1	1961.2 -1971.1	1971.2 -1981.1	1981.2 -1991.1	1991.2 -2001.1	2001.2 -2006.8
『学校図書館』号	8号 ～123号	124号 ～243号	244号 ～363号	364号 ～483号	484号 ～603号	604号 ～670号
学校図書館の運営・活動	23 (件)	16	22	26	17	6
学校図書館運営スタッフ	5	4	2	5	10	5
図書館資料の整理と組織化	13	20	10	9	8	3
学習指導・利用指導	11	11	13	15	9	5
読書指導	21	31	19	16	24	20
児童図書と出版事情	9	15	18	12	2	2
学校図書館行政と法律・法令	7	3	7	5	15	7
回顧と展望 (大会報告)	15	3	8	11	10	4
その他	5	16	18	26	20	9

学校図書館創成期より一貫して「読書指導」が特集となる件数が多いことが確かめられた。日本の学校図書館では、もともと創設以来、読書指導への議論が多くおこなわれてきたことが数字上でも明らかとなった。とりわけ1960年代と1990年代の件数が高いが、いずれも民間読書運動が活発となった時期でもあった。こうした変化は、文部省（文部科学省）による学習指導要領が系統学習（“教え”の学習）から調べ学習（“学び”の学習）へと転換された時期とも重なる。また青少年の読書離れの深刻化が指摘されるなどにより、学校図書館への社会や教育界の注目が高まっていた時期と対応している。

1990年代には、学校図書館の運営スタッフに関する特集が、多く見られた。該当する特集題目を調べると、「司書教諭の役割としごと」「司書教諭養成の現状と課題」「司書教諭による学習指導」「司書教諭の実践活動」など、司書教諭の職務内容等に関する特集が目立つ。これは、1996年7月に国会で可決された学校図書館法改定の動きに呼応したものと考えられる。

一方、学習指導、利用指導に関する特集は、件数的には大きな変化をみせていないが、1970年代から1980年代をピークに、減る傾向がうかがえる。これに対応するように、学習指導と利用指導の特集件数が低下しはじめた1980年代より「その他」に属する項目が増加してきている。この時期にこのカテゴリに属する各特集の題目を参照すると、「学校図書館とコンピュータ」「学校図書館にとってAVメディアは」「コンピュータの導入」「コンピュータへの対応」「インターネットの利用と留意点」「ホームページの作成と活用」「電子出版と図書館」といった題目がみられた。学校図書館の研究大会等でも、IT活用事例に関する発表が増加してきていた。社会や学校へ急速に普及しはじめたコンピュータや電子メディアへの対応が急務となっていたこととの関連性がうかがえた。

「その他」に属する特集題目には、異種図書館間ネットワークや図書館施設・設備に関する特集も複数件みられた。学校や学校図書館を取り巻く環境の大きな変化の中、従来の学校図書館では注目されなかった新しい課題や枠組みが増えつつあることも分類結果から明らかになった。

学校図書館行政や法律、法令に関するカテゴリの件数も1990年代以降増加していた。1990年代の特集題目中、学校図書館行政や法律に関するものは、その前の各時期の二倍から三倍にもなっていた。これも各特集題目を参照すると、1997年の学校図書館法改正に関する特集の件数が多いほか、著作権関連のものが複数みられた。著作権関連のものについては、著作権などの個別的権利への社会的な注目の高まりに加え、ITの急速な技術進歩とその普及が学校図書館での著作権問題をより複雑にしており、こうした問題への取り組みの必要性の意識が高まってきていることを示しているものとみられた。

逆に、児童図書と出版に関するカテゴリの特集が時代とともに大幅に減っ

た。1960年代から70年代には、読書運動などの影響もあり、学校図書館分野でも児童図書出版への関心が高まり、学校図書館界と出版界との交流が盛んにおこなわれた。その後2000年代初めには、出版に関する特集件数も減少しつつある様子が見える。1990年代は文部省（文部科学省）の学習指導要領改定や青少年の読書ばなれへの危機感の拡大にともない、読書運動が再度活発になり、朝の十分間読書といった取り組みも復活して盛んに実践されるようになった。文字活字振興関連法案が成立したのもこの付近の出来事であるが、こうした中で社会の注目に反するように、児童図書出版への学校図書館界の関心が失われてきている可能性がある。

図書館資料の整理と組織化のカテゴリに帰属された特集は、1960年代をピークに減ってきている。これは、図書館の機械化（コンピュータの導入）や共同目録作業、整理作業の外注、あるいは司書教諭の労働条件など、学校図書館現場でも資料整理（組織化）に変化が出てきていることを反映しているものとみられる。

3. 2006年9月以降の調査

調査は、既報¹⁾の結果に対する追加的調査であるため、基本的に既報¹⁾における方法と同様の手順でおこなった。

対象とした資料は、社団法人全国学校図書館協議会（全国SLA）の機関誌である『学校図書館』（月刊）を対象におこなった。同誌を対象とした理由は、前回の追加調査であること。そして、前回同様、同誌が学校図書館分野の機関誌としては最も古くから創刊され続けられていること。また同協議会は学校図書館の司書教諭など現場の関係者が中心となり設立がおこなわれ、学界の研究者や出版関係者等も加わって構成された団体であり、特集題目の設定にあたっては、(1) 同協議会の活動方針、(2) 編集委員の問題意識、および(3) 学校図書館現場の要求や問題意識が反映されているものとみなされる。そのため、それぞれの時期の学校図書館現場の状況や意向を把握しやすいと考えたからである。

対象とした期間は、2006年9月号(671号)から2018年8月号(814号)までの期間とした。なお、特集が設定されていない号は対象から省いた。

はじめに各号の特集題目および該当する各記事を抽出し、査読確認し、特集の主題を分析した。特集題目を対象とした理由も前回同様、その時期の学校図書館にかかわる現場や社会における注目度が反映されている(トピックが特集題目となる)と考えたためである。

つぎに各特集題目を主題が類似したものごとに分類した。分類にあたっては、既報¹⁾との比較のため、当時用いた分類項目に原則に従い分類(グループ化)した。ただ、当時の調査には見られなかったか、あるいは記事数がごく少なかったために「その他」の区分へ帰属していたものが、今回には、一定以上の記事数となった例も見られた。それらについては、新たな項目を設定した。「9. 情報サービス・利用支援」や、「10. 図書館施設・設備・備品」などは、こうした例である。

なお、著作権に関する主題も見られたが、情報や資料の提供段階での取り扱いに関する主題であれば、「9. 情報サービス・利用支援」へ、引用の仕方など、利用者(児童・生徒・教職員等)への指導に関する主題なら、「4. 図書館活用・資料活用・情報活用・学習指導・利用指導」へ収めた。

表3.1. に分類項目を示した。

表3.1 『学校図書館』の特集題目のカテゴリ分類

カテゴリ番号	題目のカテゴリ
1	学校図書館の管理・運営・活動全般
2	学校図書館運営スタッフ(司書教諭、学校司書、図書館委員(教職員および児童・生徒))
3	図書館資料の収集・選択・整理・組織化・装備
4	図書館活用・資料活用・情報活用・学習指導・利用指導
5	読書指導・読書感想
6	児童図書と出版事情
7	学校図書館行政と関連法律・関連法令
8	研究動向・学会消息・機関消息
9	情報サービス・利用支援
10	図書館施設・設備・備品
11	その他

4. 機関誌「学校図書館」の特集題目の分類と 題目出現数

表 4. 1. に分類例を示した。

例中には特集の題目にみられるキーワードが、上記のようなカテゴリ中のキーワードと必ずしも一致していないものがみられる。これは、こうした特集題目下で発表されている各記事を査読した結果、題目は上記表中に見られるキーワードを用いていないものの、それらの内容からみてふさわしいと判断されるカテゴリへ帰属したためである。

読書指導は、すべての期間を通じて最も多くの回数の特集が組まれており、全体の記事数の 38% に達している。二番目に特集記事の比率が高い項目は、図書館活用・資料活用、情報活用、学習指導、利用指導で、全特集記事の 25% となった。三番目は、学校図書館の管理運営、諸活動全般に関する記事で、およそ 14%。さらに学校図書館を運営するスタッフ、すなわち学校司書や司書教諭、図書館運営委員、児童・生徒で構成される図書館委員会などに関する記事で、全特集記事の 9% 程度となった。その次は、学会や研究会、研究大会等に関する消息や報告の順となった。

表4. 1. 月刊誌『学校図書館』特集題目の分類例（2006年9月号（671号）から2018年8月号（814号））

年代	2006年9月～2018年8月	年代	2006年9月～2018年8月
主題	1. 学校図書館の管理・運営・活動全般	主題	2. 学校図書館運営スタッフ（司書教諭、学校司書、図書館委員（教職員および児童・生徒）
号	特 集 題 目	号	特 集 題 目
678	図書館へのいざない	673	子どもの読書と学校図書館の現状
678	魅力的な図書館だより	677	校内研修・地区研修のありかた
683	「新5か年計画」推進への取組み	678	魅力的な図書館だより
683	秋の学校図書館行事	679	学校図書館ボランティア
684	学校図書館ホームページの活用	686	活動的な図書委員会
689	学校図書館カレンダー	697	司書教諭と学校司書の連携
695	学校図書館支援センター	710	子どもの読書と学校図書館の現状
701	学校図書館を評価する	714	司書教諭のありかた
702	学校図書館の環境づくり	729	学校図書館活用を促す教職員研修
707	特別支援教育と学校図書館		司書教諭は教育課程にどのようにかわるか
725	学校図書館経営計画の作成	729	司書教諭養成のありかた
728	夏休みの有効活用	740	学校図書館ボランティア
746	小規模校の学校図書館活動	741	図書委員会の活動
746	学校図書館の広報活動	749	学校司書の法制化へ向けて
749	東日本大震災からの復興	754	自主性をはぐくむ部活動・図書館部
770	校内協力体制による図書館運営	757	子どもの読書と学校図書館の現状
779	広報活動から情報発信へ	766	司書教諭と学校司書の連携
780	学校図書館の理念・目標を読む	774	学校司書の活動
783	新年度の図書館づくり	778	広報活動から情報発信へ
791	学校図書館における合理的配慮	806	学校司書配置の現況
793	学校図書館は学びを〈どのように〉創り出せるのか	813	図書委員会の活動
797	学校図書館ガイドライン	817	学校図書館調査報告
798	アーカイブズ概論：学校活動とのかかわりを踏まえ		

表4. 2. 特集題目件数とその割合

分類項目	記事数（件）	百分率（％）
1. 学校図書館の管理・運営・活動全般	135	13.7
2. 学校図書館運営スタッフ（司書教諭、学校司書、図書館委員（教職員および児童・生徒）	90	9.2
3. 図書館資料の収集・選択・整理・組織化・装備	30	3.1
4. 図書館活用・資料活用・情報活用・学習指導・利用指導	241	25.0
5. 読書指導	382	38.0
6. 児童図書と出版事情	9	0.9
7. 学校図書館行政と法律・法令	16	1.6
8. 研究動向・学会消息・機関消息	47	4.8
9. 情報サービス・利用支援	24	2.4
10. 図書館施設・設備・備品	10	1.0
11. その他	3	0.30
	987	

5. 2006 年以降の機関誌『学校図書館』の特集題目からみた学校図書館の動向

読書指導は、すべての期間を通じて最も多くの回数の特集が組まれていた。今回の調査でも特集記事全体のおよそ 38% を占めた。この点は、既報¹⁾とも一致しており、学校図書館の領域においては、少なくとも戦後一貫して読書指導への注意がもっとも払われてきたことを示している。しかも、表 2. 1. を元に計算をしてみると、1951 年 5 月～1961 年 1 月では、読書指導の特集は特集の総数の 19%、同様に 1961 年 2 月～1971 年 1 月では、26%、1971 年 2 月～1981 年 1 月では、16%、1981 年 2 月～1991 年 1 月では 13%、1991 年 2 月～2001 年 1 月では、20% 程度となる。今回の調査結果がもっとも割合のポイントが高い。学校図書館関係者の読書指導に対する関心が、以前よりも高まりつつある可能性がうかがえる。全国学校図書館協議会（全国 SLA）のパンフレット¹⁴⁾では、学校図書館の機能を、

1. 読書センター
2. 学習センター
3. 情報センター

の三機能として挙げている。戦後一貫して、このうちの読書センター機能への注目度が高かったことがわかる。

なお、読書の指導には、司書教諭課程科目「読書と豊かな人間性」に見られるように、児童生徒への①人格形成への寄与を目的とする読書指導に加え、②情報活用のための読書指導、の 2 種類があると思われる。戦後からの読書指導に関する文献を読むと、前者①の目的の読書が中心であった。現代の読書の目的はどうであろうか。情報社会を迎えた今日においては、紙を媒質とするもの以外にも、液晶ディスプレイなどを媒質とするデジタル形式のものも含む多数の資料から必要な知識や情報を読み取る、いわゆる②の「情報活用のための読書指導」も重要となると推測される。今回の対象とした特集記事では、上記①、②のいずれの目的の読書指導が多いのか。タイトルを一見する限り、「読書感想」「ビブリアバトル」「読書と心のケア」といったタイトルの記事が目立つ。（表 4.

3.) くわしくは内容をさらに精査しなければならないが、現在でも①の「人格形成のための読書」に主眼が置かれている印象を受ける。

二番目に特集記事が多かった図書館活用・資料活用・情報活用・学習指導・利用指導に関する特集記事は、既報¹⁾での調査では 1970 ～ 1980 年代をピークに特集記事が減る傾向にあった。その後 2006 年以降に逆に多くなってきているが、これは、情報社会へと進む中で、自ら学び、思考できる生徒の育成への社会的要求や学習指導要領の変化などが反映されているものとみられる。

一方、上述の調査¹⁾では、学校図書館の運営スタッフに関する特集が、1990 年代に多く見られたが、その傾向は、現在でも同様であった。該当する特集題目を調べると、「司書教諭の役割としごと」「司書教諭養成の現状と課題」「司書教諭による学習指導」「司書教諭の実践活動」などに加え、「学校図書館ボランティア」「図書委員会の意義」「学校司書の役割」などに関する特集が目立つ。現在、学校司書に対する意識にも変容が見られ、大学でも長年続いた司書教諭課程のカリキュラムに加えて学校司書に関するカリキュラムを加える大学もみられる。こうした動きも反映しているものと思われる。

表 4. 3. 読書指導に関連する主題の記事例

読書感想文と読書感想画	特集 読書感想画指導の取組み
「続く」読書ノートを目指した取組み	特集 読書ノートのすすめ
読書三昧の 10 日間	特集 秋の学校図書館行事
継続的な読書指導の試み	特集 徳島県の読書指導
読書週間の取組みから学ぶ	特集 読書週間・月間の取組み
造形化による読書の深化	特集 読書感想画指導の取組み
児童と取り組む読書感想画	特集 読書感想画指導の取組み
本を楽しむ子どもたち	特集 特別支援教育と学校図書館
読みあいのうれしいおくりもの	特集 読書と心のケア
学校図書館、児童文学をどう手渡すか	特集 児童文学の今
英語多読と学校図書館	特集 外国語活動と学校図書館
読書感想画という風景	特集 読書感想画指導の取組み
読書体験を共有し、発展させる読書会	特集 読書へ誘う手法
読み聞かせでつながる心と心	特集 読書と心のケア
読書の自覚を促す読書ノート	特集 読書ノートのすすめ
読んで、書いて、話し合う読書の時間	特集 読書へ誘う手法
「読書」から始める課題研究	特集 1 学校図書館とキャリア教育
読書のカウンセリング機能を学校に生かす	特集 読書と心のケア
図書館が問題解決の場となるために	特集 読書と心のケア
読書を通して " 自己の物語 " を紡ぐ	特集 読書と心のケア

6. おわりに

2006 年におこなった全国学校図書館協議会の機関誌「学校図書館」の特集記事に対する調査の結果を補完し、その後の学校図書館界の動きを把握する試みとして、さらに 2018 年 8 月までの同誌特集記事のタイトルに関する内容分析をおこなった。社会の変化、学校の変容に対応するように、特集記事の主題も実際に変化しつつあることを把握することができた。こうした方法により、日本の学校図書館の取り組みの変容を把握することができるものと期待される。今後は、変化の目立つ主題カテゴリに属する特集の各記事本文をより詳細に主題分析し、各時期の学校図書館の状況等と比較をおこなうことで、学校図書館分野の各時期の特徴とその背景、そして今後の動向をについても考察してみたい。また、文部科学省（旧文部省）の学習指導要領との対応についても把握できないか、試みたい。

文献

- 1) 『機関誌にみる学校図書館界 50 年の動向： 特集題目の分析を通じて』。今村成夫. 大正大学研究紀要. No. 92, 2007.
- 2) 『占領下日本の学校図書館改革：アメリカの学校図書館の受容』。中村百合子 著. 慶應義塾大学出版会. 2009
- 3) 『学校図書館五〇年史』。学校図書館五〇年史編集委員会編. 全国学校図書館協議会, 2004
- 4) 『学校図書館五〇年史年表』。学校図書館五〇年史年表編集委員会編. 全国学校図書館協議会, 2004
- 5) 『図書館関連団体文書にみる米国における「インフォメーション・リテラシー」の変遷』。中村百合子. 日本教育工学雑誌. 26 (2), 2002.
- 6) 『研究文献レビュー学校図書館における日本国内の研究動向』。中村百合子. カレントアウェアネス, 282, 2004.
- 7) 『学校図書館司書教諭養成カリキュラムの現状と課題——アンケート調査を終えて』(特集 [日本図書館研究会] 第 41 回研究大会) / 柴田正美; 岩崎 れい; Yukako Kornhauser 他. 図書館界. 52 (2) (通号 293) 2000.

- 8) 『わが国における学校図書館司書教諭養成の諸問題——平成 11 年度の新カリキュラム移行に関するアンケート調査の結果を中心に』（特集：〔日本図書館研究会〕第 40 回研究大会）渡辺 信一；柴田 正美；岩崎 れい 他，図書館界 . 51（2），（通号 287）1999.
- 9) 『学習指導・調べ学習と学校図書館』，大串夏身編著．志村尚夫；天童佐津子監修．青弓社，2009（学校図書館図解演習シリーズ；3）
- 10) 『全国 SLA〔学校図書館協議会〕創立 40 周年記念特集：学校図書館の 40 年〔含 年表〕』全国学校図書館協議会編．学校図書館（通号 482）1990
- 11) 『学校図書館利用教育に関する実証的研究』，原勝子 著．風間書房，2004
- 12) 『学びが広がる学校図書館システムガイド：1（入門・システム編）』，大木実編著．日外アソシエーツ，2003
- 13) 『学校教育における図書館と情報教育』，金沢みどり著．青山社，2008
- 14) 『全国 SLA パンフレット』全国学校図書館協議会 http://www.j-sla.or.jp/pdfs/about/jsla_panf.pdf（2018 年 10 月現在）